



平成 18 年 10 月 30 日

各 位

会社名 曙ブレーキ工業株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 信元 久隆  
 (コード番号 7238 東証第1部)  
 問合せ先 取締役専務執行役員・CFO 荻野 好正  
 (TEL 048-560-1501)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 18 年 5 月 8 日の決算発表時に公表致しました平成 18 年 9 月中間期(平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日)・平成 19 年 3 月期通期(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)の連結及び個別業績予想を下記のとおり修正致します。

### 1. 連結 業績予想の修正

(1) 平成 18 年 9 月 **中間期** (平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日) (単位：百万円,%)

	売 上 高	(ご参考) 営 業 利 益	経 常 利 益	中間純利益
前回発表予想 (A) (平成18年5月8日発表)	82,500	6,200	5,800	3,300
今回予想数値 (B)	86,219	6,101	5,096	2,817
増減額 (B - A)	3,719	△99	△704	△483
増 減 率	4.5%	△1.6%	△12.1%	△14.6%
前期(平成17年9月中間期)実績	64,305	4,574	4,664	2,133

(2) 平成 19 年 3 月期 **通期** (平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日) (単位：百万円,%)

	売 上 高	(ご参考) 営 業 利 益	経 常 利 益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成18年5月8日発表)	170,000	14,000	13,200	7,500
今回予想数値 (B)	172,000	14,000	12,400	7,500
増減額 (B - A)	2,000	-	△800	-
増 減 率	1.2%	-	△6.1%	-
前期(平成18年3月期)実績	142,260	11,730	11,025	5,857

※営業利益について、平成 18 年 5 月 8 日の決算短信で公表しておりませんが、当社が当初予想した数値を表示しております。

## 2. 個別 業績予想の修正

平成 18 年 9 月 **中間期** (平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日) (単位：百万円,%)

	売上高	(ご参考) 営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A) (平成18年5月8日発表)	53,000	2,500	2,600	1,500
今回修正予想 (B)	50,990	1,287	1,260	1,025
増減額 (B - A)	△2,010	△1,213	△1,340	△475
増減率	△3.8%	△48.5%	△51.5%	△31.7%
前期 (平成17年9月中間期) 実績	51,151	3,018	3,110	1,771

(2) 平成 19 年 3 月期 **通期** (平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日) (単位：百万円,%)

	売上高	(ご参考) 営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成18年5月8日発表)	107,000	5,100	5,200	3,100
今回修正予想 (B)	103,500	3,100	3,000	2,100
増減額 (B - A)	△3,500	△2,000	△2,200	△1,000
増減率	△3.3%	△39.2%	△42.3%	△32.3%
前期 (平成18年3月期) 実績	104,164	6,173	7,779	2,535

※営業利益について、平成 18 年 5 月 8 日の個別財務諸表の概況で公表していませんが、当社が当初予想した数値を表示しております。

## 3. 修正の理由 (平成 18 年 5 月 8 日発表時の予想数値比)

### (1) 連結業績予想

#### [中間期]

北米・アジア地域の売上高増加により連結売上高は 37.2 億円 (+4.5%) 増加となる見込みとなっております。営業利益は日本国内での原材料の高止まり・為替影響等がありましたが、北米・アジアでの増収により、前回予想より若干下回った程度となる見込みです。経常利益は、金利上昇等があり 7 億円 (△12.1%) 減少、中間純利益も 4.8 億円 (△14.6%) 減少する見込みとなっております。

#### [通期]

下半期において、連結売上高は日本国内で受注落ち込みの影響を見込んでおりますが、中間期 37.2 億円増加が寄与し通期は 20 億円 (+1.2%) 増加となる見通しです。営業利益は中間期合理化効果の寄与分もあり前回予想同様と見込んでおりますが、経常利益については中間期の金利影響が下半期にも引続くと予想し 8 億円 (△6.1%) の減少、当期純利益は中間期に特別損失を前倒したことで、減税効果を見込み前回予想と同じになる見通しです。

## (2) 個別業績予想

### 〔中間期〕

主に OEM 向の受注減により売上高は 20.1 億円 ( $\Delta 3.8\%$ ) の減少となる見込みとなりました。経常利益は、売上高減少による影響、生産子会社から仕入価格設定方式の見直し及び原材料価格高止まりの影響等で前回の予想に対して 13.4 億円 ( $\Delta 51.5\%$ ) 減少となり、中間純利益も 4.8 億円 ( $\Delta 31.7\%$ ) 減少する見通しとなりました。

### 〔通期〕

下半期については、売上高が第 4 四半期にかけて持ち直す見通しではありますが、前回予想より落ち込み 35 億円 ( $\Delta 3.3\%$ ) 減少と見込んでおります。経常利益は売上高減少の影響に加え中間期同様原材料高止まりの影響等も見込まれ 22 億円 ( $\Delta 42.3\%$ ) の減少、当期純利益についても 10 億円 ( $\Delta 32.2\%$ ) 減少する見通しです。

配当につきましては、従来の計画通り、年間 1 株当たり 6 円（うち中間配当として 3 円）を予定しております。

以 上

- \* 〔本資料に記載されています業績等の予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて算定しており、実際の業績は、今後の様々な要因により予想数値と異なる場合があります。〕